

平成 30 年 中小企業の診断および助言に関する実務の事例 I : 解信用紙

本試験答案は、学習ガイドブック 6 頁の「本試験答案作成の注意点」に従い作成したものを提出ください。

受講番号(楷書で丁寧に書きください)						イニシャル		採点欄	
1	8	2	0	1	7	1	6	(M・W)	61

もう少し与件を活かして書けると良かったと思います。

第1問 (配点 20 点)

10

理由は、主力取引先への依存による事業縮小を経験した中、①幅広い製品を取扱うことでの売上の安定化や、②社長の先見性や研究開発力を活かし、対象市場を明確化し、他企業との差別化集中を図っていくため。

第2問 (配点 40 点) (設問 1)

12

理由は、技術者が 9割近くを占める人員構成の中、①電子機器開発に特化するこでの開発力の強化や、②信頼できる生産・販売のパートナー企業の獲得、③営業部員等の増員を行わずに、人件費負担の増大を抑制するため。

消費財の関係がちょっと不明でした。

Good 良く出来ていると思います。

(設問 2)

13

事業特性は、①以前に開発した製品は、受注生産で特注的な製品であり、売り切り型であったが、②複写機関連製品は、消耗品の再受注など、長期的な顧客との関係構築や安定受注が見込める、等の違いがある。

混成チームには漏れなく触れたかったです。

第3問 (配点 20 点)

11

組織改編の目的は、①各部門で培った技術を全社間で共有・蓄積し技術力の更なる向上や、②職能別に分化することで専門性の向上、③各部門を統括する部門長を配置することでコミュニケーション強化、等がある。

VeryGood 良く出来ていると思います。

第4問 (配点 20 点)

15

A社は、①配置面で、従業員の技能や希望に応じた適正配置、②評価面で、新技術開発等での目標管理を行い、チャレンジング精神を維持し、③能力開発面で、研究開発力を強化するための外部研修の実施、等で独創性を維持する。

MMC講師 中居